



自分を越えた眼を Look Beyond Yourself

Raja

ラジェンドラ・K、サブ
 1991~1992年度 R I 会長

ロータリー雑誌月間

1992. 4. 10 (金) 第216回例会

1. 点 鐘
2. ロータリーソング「それでこそロータリー」
3. 「四つのテスト」唱和
4. 食 事
5. 会長の時間
6. 幹事報告
7. 各委員会報告
8. 会員卓話
9. 点 鐘

第215回例会記録 (1992. 4. 3)

会長の時間 濱田 松太郎

皆さん今晚は、本晩は第215回例会です。

本晩は観桜会ということで、例会場を西佐土原、ここ宝塔山の一角におきましての夜間例会であります。ロータリーは1にも2にも親睦を深めながら奉仕の理想を高めていくことが基本でもあります。

ところで、今からサクラに因んで、下手な童謡を一曲歌わせていただきます。

「サクラ、サクラ、やよいの空は

かすみか、くもか、匂いぞいする

いざや、いざや、見に行かん」

そうです。サクラは日本のシンボルでもありまして、全国津々浦々に至るまで、南は沖縄から、北は北海道に至る間、サクラ前線の北上に伴い見事な花を披露してくれます。

日本人の気質を一言で表現する、いわゆる、

「敷島の和心を人間わば、朝日に匂う山桜花」とは、本居宣長の作でありまして、佐土原町がこの山桜をシンボル(町木)としております。

そうして、清少納言は、「木の花は濃きも薄きも紅梅、桜は紅梅、桜は花びらおほきに、葉の色濃きが、枝細くして咲きたる」とも言い、サクラの美しさは「絵に書きおとりするもの」とも言い、到底絵をもってしては表すことにはできない、と言っております。

近代に到りますと、作家岡本かの子は、「桜花のいのち、いっぱい咲くからに、いのちをかけて、わが眺めたり」と、己の姿が桜そのものに化身するような幻覚におちいるとも言い、作家宇野千代は、淡墨(ウスズミ)の桜(樹齢は1200年・幹廻り3丈8尺・枝のひろがり2反歩、岐阜県根尾村)との20年前のあの運命的な出会いを述べ、サクラに対する愛着は、デザイン等を通して異常なくらいのこり方とも言われております。そして松尾芭蕉は、「さまざまなおもい出す 桜かな」とも詠んでいます。今年はエルニーニョ現象の影響でしょうか、意外なほど長雨が続いたせいか、サクラ前線が通過したにもかかわらず、サクラの開花が遅れたのが幸いしまして、僕達の観桜会と時を同じくしての満開となり、心ならずも平日頃の行いに大が恵みを与えられた絶好の観桜会の運びに、感謝の気持でもあります。

飲み方を前にしての長談義は時間のさまたげ、お供えましたものは粗洒野肴でございますが、飲物の方は十分に準備がしてありますので、今

宵は満開のサクラを賞でつつ、意志の疎通を図りながら、胸襟を開きロータリーをエンジョイしていただきたいと思います。

終りになりましたが、この催しを開催するに当り、一方ならぬお骨折りの労をしていただきました斉藤数馬親睦委員長さんに対し、厚く感謝申し上げます、会長の時間を終わらせていただきます。

幹事報告 鈴木正敏

例会変更通知

- ・都城北RC 4月7日 18:00～
都城ニューグランドホテル
- ・都城西RC 4月8日 18:30～
レストラン・和光
観桜会
- ・日向RC 4月9日 18:30～
ホテル・バンドラ
観桜会
- ・都城中央RC 4月9日 18:00～
都城大丸
観桜会
- ・都城RC 4月10日 12:30～
都城地区製材業協同組合
職場訪問

出席報告 委員長 神宮寺 利夫

会 員 数	18名
欠 席 者 数	0名
出 席 者 数	18名
出 席 率	100%

夜間例会ということもあって、久振り待望の全員出席していただき、これでこそ佐土原RCと感じました。今後も頑張っていきましょう。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇
例会が終って、直ぐに観桜懇親会に移りました。斉藤親睦委員長の挨拶に始まり、バスト第二代会長垂水敏雄君の乾杯の音頭により開宴となりました。宝塔山公園の桜も満開で、夜桜の

下で数組のグループが楽しんでいるのが、惜春の情を覚えさせてくれました。

いつの間にか午後9時を過ぎ、初代バスト会長山脇 烈君の萬歳三唱をもって、有意義な裡に、極めて盛会の観桜会の幕を閉じました。

皆さん、今宵は大変盛りしました。この気持をもって、今後の佐土原ロータリークラブの活性化に向かって、特に会員増強に、一段のはずみがつくことと確信いたします。

私達役員の任期もあと3ヶ月足らずとなりました。さらに心を引き緊めて対処していきたいものと考えます。

皆さん方の一層のご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。(会長コメント)

「私はひとりだ。だから何もかもできるというわけにはいかない。しかし、私にできることが何かあるのは確かだ。もしみんなが、あるいは少なくとも何人かが、何かをしようと決意するなら、社会奉仕はどれだけ充実するだろうか。」
(英国) フローレンス・ナイチンゲール

※“何かを”の箇所を“会員増強”の文字を入れてみましょう。そして“社会奉仕”のところには“佐土原RC”を。

次の会長、役員にバトンタッチするまでに、何としても20名は超すことを決意しましょう。みんなが決意して、会員増強に取り組みましょう。

「途方にくれたとき、私は、石工が岩石を割るのを見に行く。おそらく100回も打ったのに裂け目すらできない。しかし、101回目の一撃で岩石は二つに割れる。私は知っている。二つに割ったのは最後の一撃ではなく、それまでに積み重ねられた成果であることを。」
(米国) ジャコブ・リイス

※これらと思う会員候補者のところには、10回でも20回でも勧誘に行きましょう。